

民医連厚生事業協

# 共済だより

2020年  
7月  
第147号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター6F  
TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652  
E-メール:k-tayori@min-iren.gr.jp  
(共済だより用)  
kyousai@min-iren.gr.jp  
(厚生事業協宛)  
ホームページ:http://www.min-jigyo.or.jp/



いわさきちひろ「あやめと少女」1967年  
(14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしております)

## 主な記事

- **伝えていきたい私の民医連**⑫⑩ 岡山・浪尾 淑子 (上)
- **いま、沖縄に連帯して** 再び示された民意、沖縄はあきらめない
- **いま、なぜ憲法改悪なのか** パートⅡ⑦⑧ 若手弁護士の会
- **縮図からみる世界**②⑦ 「解決できるのは安倍政権だけ」だと胸を張り／斎藤 貴男
- **私の趣味・フィールド紹介**⑫⑦ あきらめずに勝ち取った全国大会／熊本・田畑 健伸

退職者の方への「共済だより」の発送は、5月号より慰労金受給者、待機者の方に送付させていただきます。  
なお、誌面の一部は上記ホームページにて閲覧できます。



携帯電話でご応募の方はこちらからどうぞ  
応募先のメールアドレスが読みとれます

# いま、沖縄に連帯して

## 再び示された民意、 沖縄はあきらめない



台風接近のためテントが外されたゲート前の集会所

沖縄県議会議員選挙が6月7日に行われ、玉城デニー知事を支えるオール沖縄・県政与党陣営は25議席を獲得し、引き続き過半数を維持することが出来ました。しかし、与党派の中で現職が4人も落選し、現有議席を一つ減らした反面、自民党が3議席増やすなど、厳しい結果となった選挙でした。

今回、自民党は県議選の公約に辺野古新基地建設による普天間基地の移設容認を明記しました。ただし、候補者の政策ビラや街頭での演説で辺野古容認を口にするのではなく、当選した自民党候補は誰一人として有権者に辺野古容認を訴えてはいませんでした。その事実を知りながら菅官房長官は、「辺野古移設の理解が進んだ」と発言し、コロ

ナで止まっていた辺野古新基地建設を改めて推進すると明言しました。

新型コロナウイルスの影響で、沖縄県も学校の休校や商店等の営業自粛、県を跨いで移動の自粛など、さまざまな制限がありましたが、そんな中で行われた県議選挙も、今までとは違うさまざまな制限を受けながらの選挙となりました。3密を避けるため、演説会や集会が開けず、対面の支持の訴えも遠慮しなければならず、数人が街頭に立つてのスタンディングですら密になっているとクレームが寄せられる、何をやっても非難される厳しい状況でした。やれることと言えば政策ビラの配布と電話を使っての支持のお願いくらいでした。

全国的に、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、沖縄県でも5月中旬以降、さまざまな規制が解除され、選挙戦も少しずつ活発になっていきました。それでも感染を恐れる有権者が多いため投票率が低下し、組織力のある自民系候補に有利な選挙となることが予想されていきました。しかし、安倍政権のコロナ対策への批判と、コロナ禍の中で沖



県議選の結果を伝える県内2紙

縄防衛局から出された辺野古埋立て工事設計変更申請に対する県民の怒りが、県政与党過半数確保に繋がったと考えています。

民意は再び示されました。沖縄は絶対あきらめません。全国からの変わらぬご支援をお願いします。

2020年6月10日

沖縄県医師連共済会連絡会

会長 瀬長和男

### ◎カンパ送付先

郵便振替口座 加入者名：沖縄県統一連  
口座番号：01710-8-62723



## 警察権力の中で

人種差別へ怒る抗議デモが、全米はおろか世界中に広がっています。発端は5月25日、ミネソタ州ミネアポリスにて無抵抗の黒人男性ジョージ・フロイドさんが、警官に膝で首を押さえつけられ死亡しました。警官が「息ができません！」と必死に叫ぶフロイドさんを無視し、死に至らしめた光景は動画でたちまち世界中に知れ渡りました。アメリカで白人警官が無抵抗の黒人を殺す事案は後を絶たず、ミシガン大学の調査によれば、若い黒人男性の主な死因として「警官の実力行使」は6位とすること（1位が事故死、5位はがん）。社会の根底にまぎれもなく人種差別ないし白人至上主義が巣食い続け、特に黒人奴隷の逃亡防止や公民権運動の抑圧を主な仕事のひとつとしてきた警察権力の中ではいまだ克服できていないことが、改めて露呈したといえます。

## 大統領までも屈服させ

全米で広がる抗議デモの大半は平和的に行われているものの、「デモの暴徒化」や略奪がセンサーシヨナルに報道されています。しかし、こ

## シリーズ

# いま、なぜ憲法改悪なのか **パートII**

## ⑧ 人種差別 これを許すのか？ 許さないならどう動くのか？ ～無関心も傍観も差別の容認～



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表 黒澤いつき  
公式ブログ <http://www.asuno-jiyuu.com/>

の「暴徒化」に関しては、組織された「扇動者」がデモに紛れ込んで暴力を呼びかけていたり、白人至上主義グループがSNSで反差別団体を

装いながら、デモでの暴力を煽ったことなどが発覚しています。真摯に差別に抗議する多くのアメリカ国民を、トランプ大統領は「暴徒予備軍」かのように敵視し、本質である

人種差別には触れず、デモ鎮圧のために軍の出動まで命じようとした。しかし警察や軍隊の幹部がこれに激しく抵抗・反論し、大統領は方針転換して発言を撤回するに至りました。人種差別という根深すぎる闇を抱えながらも、国民の自由・平等・民主主義への確信が大統領までも屈服させる、アメリカという国のアンビバレントな生々しい姿が、人類一人ひとりに「それで、あなたは どうする？」と問いかけてきている気がします。

## 日本の現政権と与党が抱く 外国人差別があふれ

言うまでもなく日本においても人種・民族差別はまったく他人事ではありません。歴史的に（アイヌ、琉球「沖繩」、在日差別など）は今なお続いています。外国人労働者や留学

生への差別的な政策の数々も、現政権と与党が抱く外国人差別の表れです。

無関心も傍観も差別の容認です。差別を終わらせるには、「差別する側」にいる人々が差別される側の必死の叫びを「自分に対する怒り・悲しみ・抗議」と受け止め、行動で示すしかありません。

## 日本の大臣や公共放送の 差別感情の暴露

麻生大臣は新型コロナウイルスの死者数が欧米に比べて少ないことについて「民度の違い」と述べました。またNHKの「これでわかった！世界のいま」という番組が、ツイッターでアメリカの人種差別問題を、さも黒人が暴力的であるかのような動画や、黒人のふるまいが白人警官に恐怖を植え付けているかのようなツイートを語り猛批判を浴びています。世界中が差別に怒り、議論する只中で、日本の大臣や公共放送の差別感情の暴露。まさに、私たち主催者一人ひとりが「これを許すのか？許さないならどう動くのか？」と人問性を問われているのです。憲法12条が国民に求める「不断の努力」を、今日も、明日も、探りましょう。



## 縮図からみる世界【27】

齋藤 貴男



## 「解決できるのは安倍政権だけ」だと胸を張り

横田滋さんが6月6日に老衰で亡くなった。87歳だった。1977年に長女のめぐみさん（当時13歳）を拉致され、その事実が明らかになった97年以来、娘の救出に生涯を賭けてきた人である。

安倍晋三首相は記者団に、「めぐみさんの帰国を」総理大臣として未だに実現できていないことは、断腸の思いであり、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいだと語った。相も変らぬ舌先三寸が切ない。

この男は北朝鮮による拉致問題を徹底的に利用した。「解決できるのは安倍政権だけ」だと胸を張り、その実、「最大の圧力」を叫んでは強がるパフォーマンスばかりで、具体的な動きが何もない。2018年の米朝首脳会談でも何もせず、善処方をトランプ大統領に託して済ませ、金正恩氏に、「なぜ直接言ってこないのか」と一蹴される始末だった。

横田滋さんと早紀江さんの夫妻は、そんな政権に深く傷つけられていたに違いない。早紀江さんが、「40年経っても何も変わらない。（政府を）本当に信じてよかったのか」と述べたのは、2017年11月の記者会見である。翌12月7日付の『神奈川新聞』に載ったインタビューでも、彼女は、「本来なら首相が乗り込んで解決す

べき問題なのに」と語っていた。

かつてタカ派で鳴らした中山正暉・元建設相（88歳）に聞いた話を思い出す。彼は現役の自民党政治家だった1990年代末から2000年代初め、「北朝鮮拉致疑惑日本人救援議員連盟」（拉致議連）および「日朝友好議員連盟」の会長として、事態の打開に取り組んだ。強く押すだけでは交渉にならないので、融和を図ることから始めたのは当然だ。

が、これが一部勢力の猛反発を食った。自宅の庭に猫の死骸が投げ込まれたり、拉致被害者の家族が奇妙な言動を取ったり、異常な事態が度重なって、追い詰められた中山氏は、拉致問題から手を引いた。

「なんだかものすごい世界大戦略の裾野みたいなものが見えてしまった気がしてね。拉致を利用している勢力がどこかにある。公安警察か、米国か、あるいは中国か。対立を激化させ、いつかどこかの国がバンとアジアで叩いた時、日本人がみんなで拍手するような状況を作っておく準備なのか。だから、たとえば石原慎太郎君のような人間を祭り上げておく必要も生じる...」  
背筋が寒くなった。北朝鮮には永久に敵でい続けてもらいたい存在こそが、この国の不幸の、おそらくは元凶なのである。

## 齋藤 貴男（さいとう たかお）

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国パーミンガム大学大学院修了。主な著書に『機会不平等』『国民のしつけ方』『戦争経済大国』『平成とは何だったのか』『驕る権力、煽るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』など。

